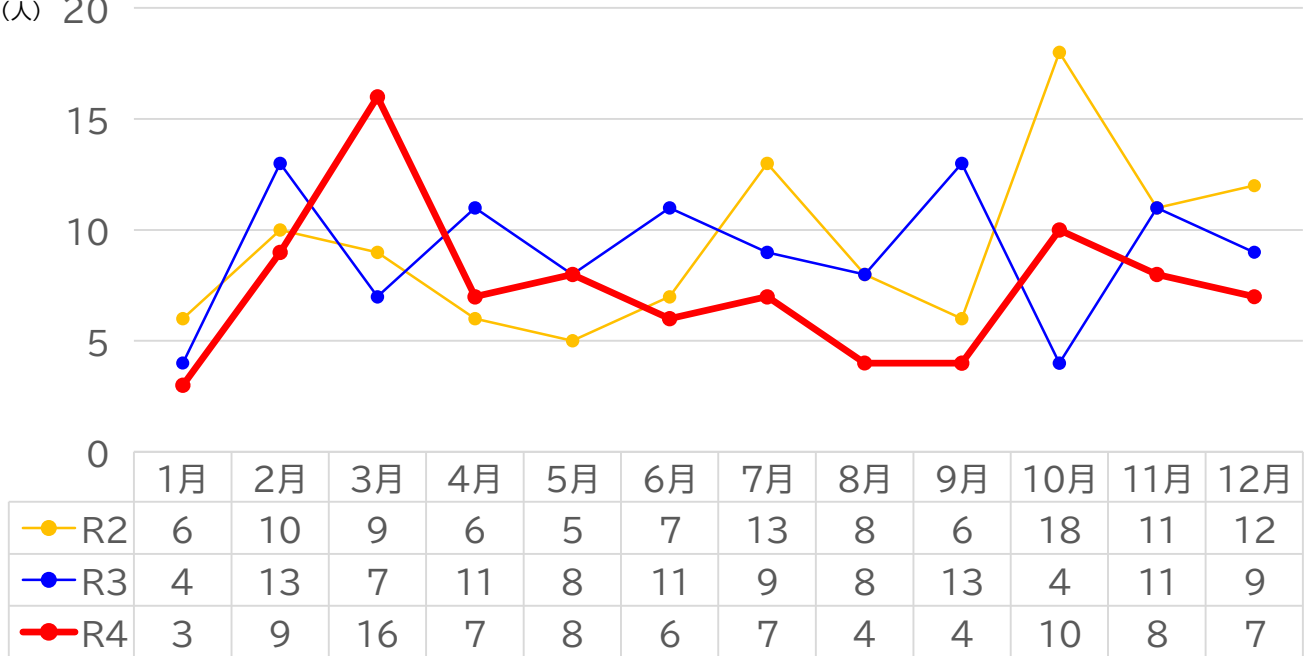


自殺者数の現状

(いずれも徳島県警調べ:速報値)

1. 県内の自殺者数の推移

(人) 20



(人)

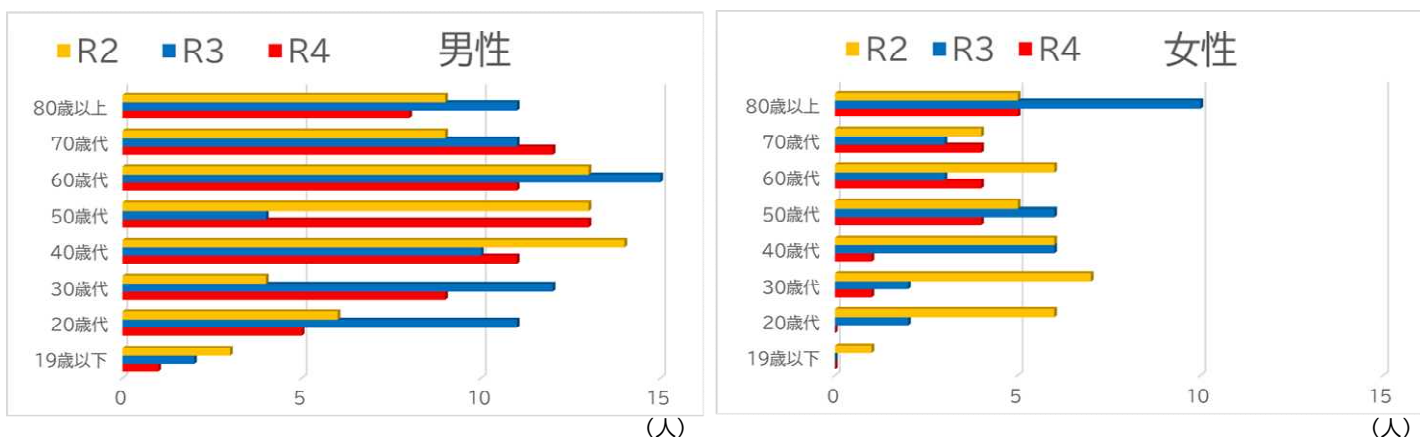
〈令和4年の状況〉

- ・年間の自殺者数は、H25をピークに減少傾向で推移。
- ・R4の自殺者数は、3月に急増したものの、以降は低い水準で推移し、年間自殺者数は、過去最少のH30と同数「89人(対前年▲19人)」。
- ・自殺死亡率(※)は「12.5」となり、目標値「13.0」を達成。

(※)自殺死亡率:人口10万人あたりの死亡者数

	年間
R2	111
R3	108
R4	89

2. 性別・年齢別の自殺者数の推移

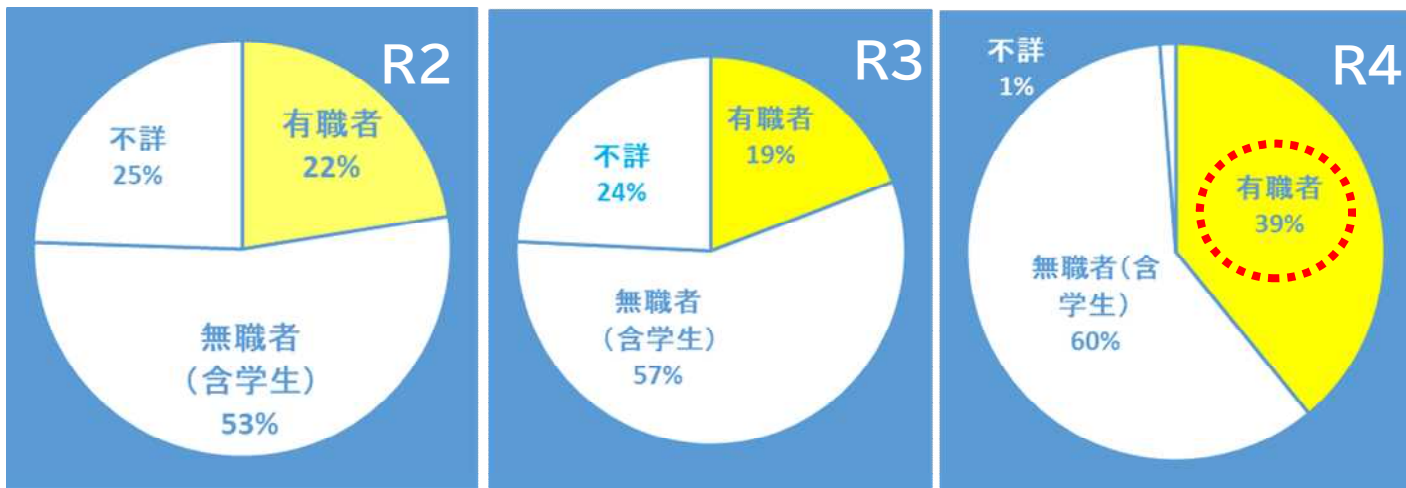


〈令和4年の状況〉

- ・男性は、前年に比べ、若年層(39歳以下)の割合が減少した一方、中・高年齢層(40～70歳代)が増加し、総数は70人(対前年▲6人)。
- ・女性は、高年齢層(80歳以上)が大幅に減少するとともに、若年層(39歳以下)が「1人」と大幅に減少し、総数は19人(対前年▲13人)と減少傾向が加速。

	男	女
R2	71	40
R3	76	32
R4	70	19

3. 自殺者数における有職者(職業に就いている人)の割合

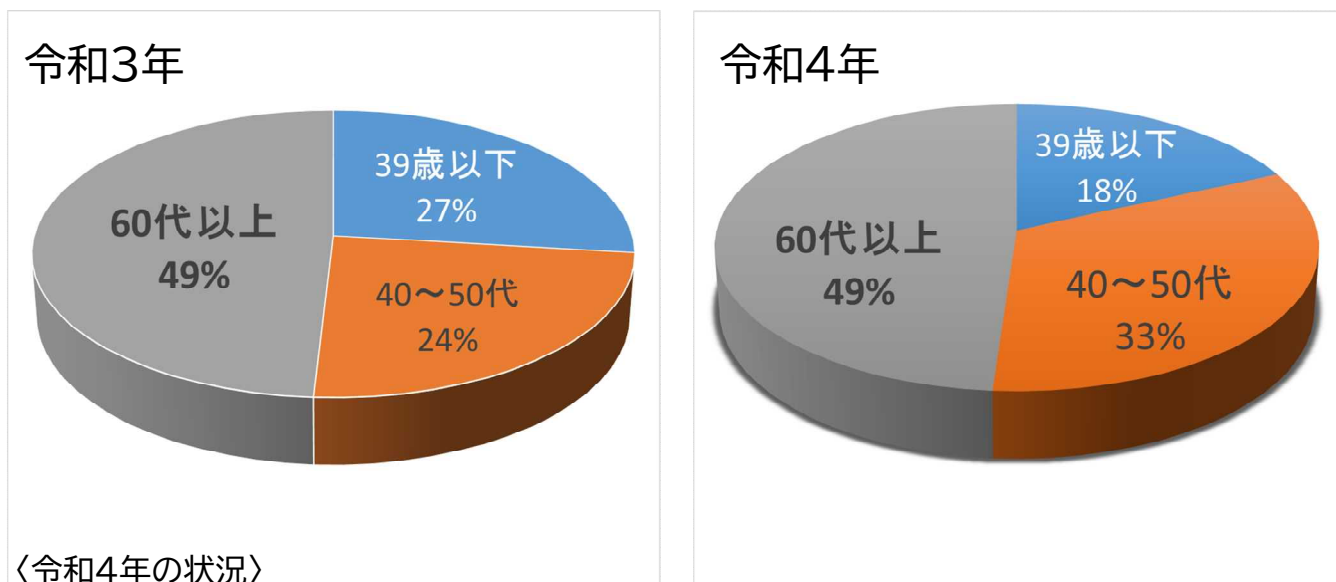


〈令和4年の状況〉

・R4は「有職者」の割合が「39%」と高い水準。

※R3以前の調査は、「不詳(有職者か無職者か不明)」の割合が大きく、前年比較が困難。

4. 自殺者数における年齢層別の割合



〈令和4年の状況〉

・前年に比べ、「若年層」の割合が減少した一方、中間年齢層(40~50代)の割合が増加。

5. 現状分析と今後の見通しについて

・コロナ禍が長期化する中、新型コロナ第6波において、「外出機会」や「人と接する機会」の減少を要因の一つとして、R4年3月の自殺者数は「16人」と大幅に増加(対前年9人増)。

・そこで、5月を本県独自の「自殺防止対策強化期間」と定め「声かけキャンペーン」や「街頭啓発」など様々な取組みを展開。

また、コロナの影響により「孤立」しがちな人に対し、周囲が「気づき」や「声かけ」ができるように県において制作した「メンタルヘルスに関する動画」を用いた普及啓発にも取り組んだ。

その後、4月以降の自殺者数は低い水準で推移し、年間では「89人(対前年▲19人)」と過去最少を記録。

・一方で、急激な円安の進行やロシアによるウクライナ侵略等に伴う物価高、業績悪化等により、生活環境は厳しくなっていること等を受け、「有職者」や「中間年齢層」の自殺者の割合は高くなっており、ターゲットを絞った対策が必要。

・今後も、自殺者ゼロに向け、「孤独・孤立対策」や「生活困窮者対策」をはじめ、「ゲートキーパーの養成」や「重層的支援体制の整備」を、より一層加速させていく必要がある。